

モデルケース1: 保健センターの統合と集会施設との複合化

<対象施設の概要>

施設名称	付属施設	小学校区	延床面積	建築年度	築年数
西枇杷島保健センター	にしびさわやかプラザ	西枇杷島	784	2004	16
清洲保健センター	—	清洲	607	1978	42
新川保健センター	新川福祉センター	新川	545	1982	38
春日保健センター	春日老人福祉センター 春日老人福祉センター3階(県貸付)	春日	672	1980	40
清洲市民センター(集会施設)	—	清洲東	817	1979	41

※経過年数は2020年3月時点。
 ※延床面積には付属施設は含まない。
 ※清洲市民センター(集会施設)の延床面積は貸室の合計値を示す。

適正配置方針

- 各保健センターは、2028(令和10)年度までを目途に同施設との統合を検討する。
- 清洲市民センターのホール機能を春日公民館に統合する検討に伴い、清洲市民センターの集会施設機能と統合保健センター(仮称)との複合化を検討する。

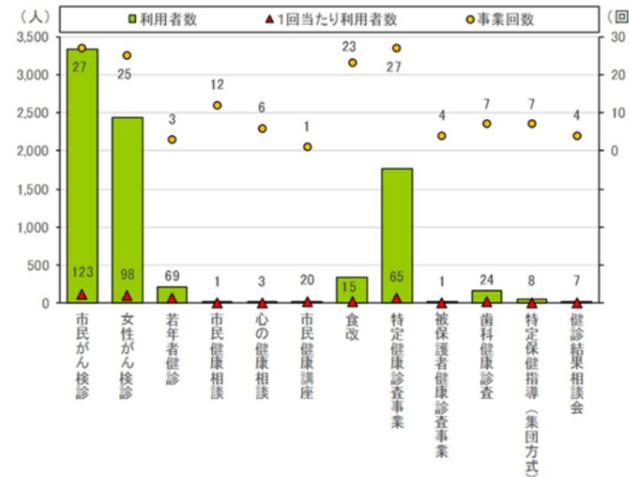
保健センター

- 母子及び成人保健事業の年間実施回数は合計340回で、統合により回数は削減可能であると考えれば、運営上の支障はないと思われる。
- 最も受診者が多いのは市民がん検診123人/回より、西枇杷島保健センターの最多受診数131人(平成30年度10か月児健診)が上回っているため、西枇杷島保健センターの規模を基準に検討する。

<母子保健事業毎の受診者数(H30)>



<成人保健事業毎の受診者数(H30)>



清洲市民センター

- 清洲市民センターの貸室の利用状況は平均34%である。
- 203会議室、302視聴覚室、303会議室の3室が平均を下回っているため、整理を検討する。

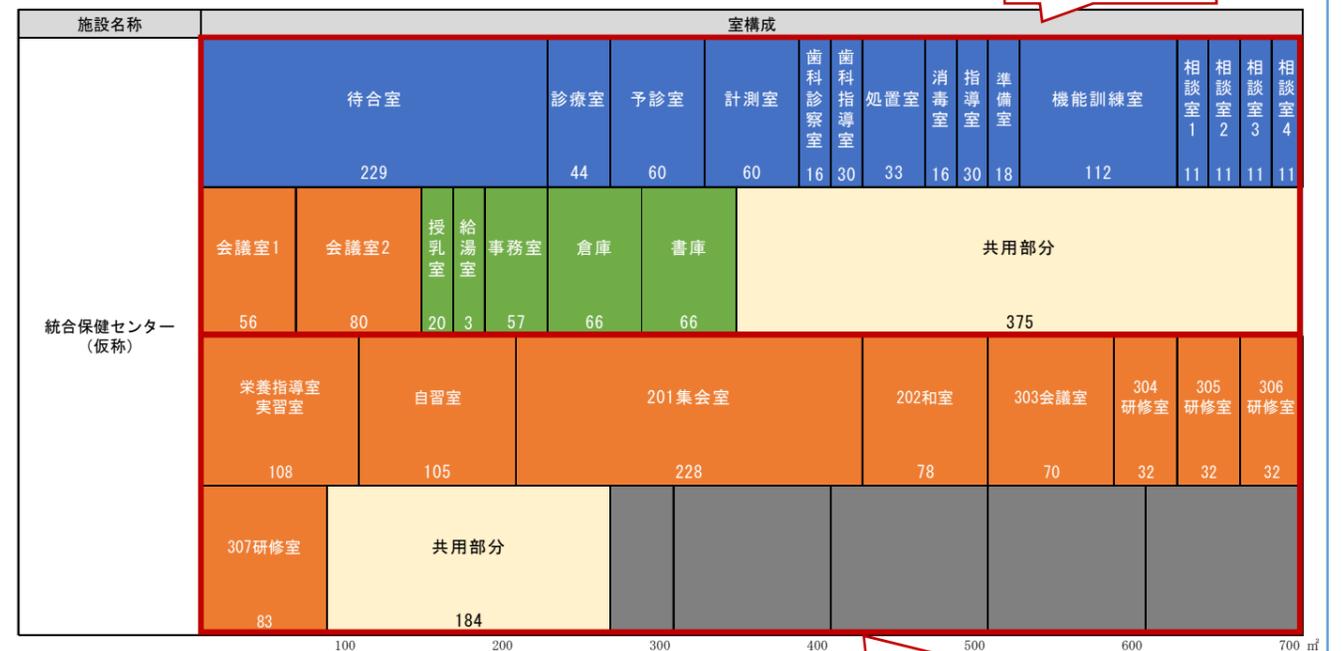
<清洲市民センター貸室利用状況(H30)>

貸室名称	室面積	H30 利用件数	利用率
201集会室	228.4	356	41%
202和室	77	343	39%
203会議室	68	109	12%
302視聴覚室	93	138	16%
303会議室	70	257	29%
304研修室	30	352	40%
305研修室	30	307	35%
306研修室	30	491	56%
307研修室	83	360	41%

整備内容

- 西枇杷島、清洲、新川及び春日地区の4つの保健センター及び清洲市民センターの集会施設機能を配置する建物を新設する。
- 現在ある機能については、1つは必ず新施設に引き継ぐものとして、施設間で機能が重複する場合には面積が広いものを選択する。
- 利用率の低い機能は整理し、また新たな必要な機能は追加及び拡充する

<統合保健センター(仮称)及び複合施設の施設規模>



清洲市民センター(集会施設)

<2056(令和38)年度までのライフサイクルコスト>

施設名	現状の施設を維持する場合		適正配置方針を行う場合	
	面積 (㎡)	費用	面積 (㎡)	費用
西枇杷島保健センター	784	2.4億円	—	—
清洲保健センター	607	2.2億円	—	—
新川保健センター	545	2.5億円	—	—
春日保健センター	672	3.0億円	—	—
清洲市民センター	817	4.1億円	—	—
統合保健センター(仮称)	—	—	2,367	11.1億円
合計	3,425	14.2億円	2,367	11.1億円
削減量	—	—	△1,058	△3.1億円

※施設の解体費用は含まない。
 ※西枇杷島保健センターの転用に係る費用は含まない。

モデルケース2: 西枇杷島地区における集会施設と福祉施設の統合・複合化

<対象施設の概要>

施設名称	主たる施設	小学校区	延床面積	建築年度	築年数
西枇杷島会館	—	古城	2,010	1971	49
にしびさわやかプラザ	西枇杷島保健センター	西枇杷島	2,984	2004	16
西枇杷島老人福祉センター	—	西枇杷島	1,182	1979	41
西枇杷島生きがいセンター	小田井児童館、小田井公民館	古城	3,507	1990	30
老人憩の家	—	西枇杷島	68	1977	43

※経過年数は2020年3月時点。
※延床面積は、付属施設を含めた数字を示す。

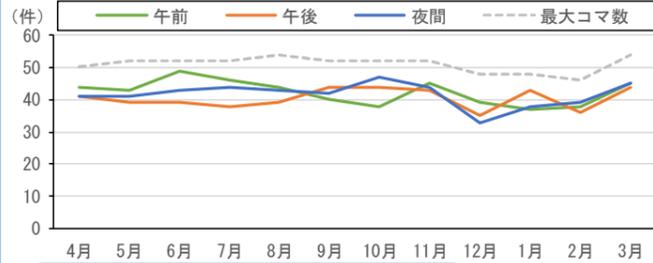
適正配置方針

- 西枇杷島会館は、にしびさわやかプラザで大規模改造を実施する2029(令和11)年度に合わせて、にしびさわやかプラザへの統合を検討する。
- 西枇杷島老人福祉センターと老人憩の家は、大規模改造を実施せず、西枇杷島生きがいセンターとの統合及びにしびさわやかプラザとの複合化を検討する。

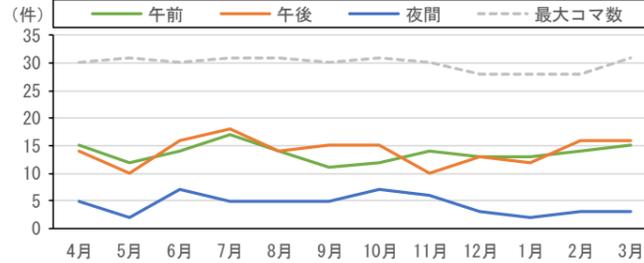
にしびさわやかプラザ・西枇杷島会館

- にしびさわやかプラザの多目的ホールは1年を通じて80%程度利用されており、統合後に西枇杷島会館のホールの利用者をすべて受け入れるのは難しいと思われる。
- ホール以外の貸室の利用状況には余裕があり、西枇杷島会館の利用者の受け入れは可能である。

にしびさわやかプラザ
＜多目的ホールの利用状況 (H30)＞



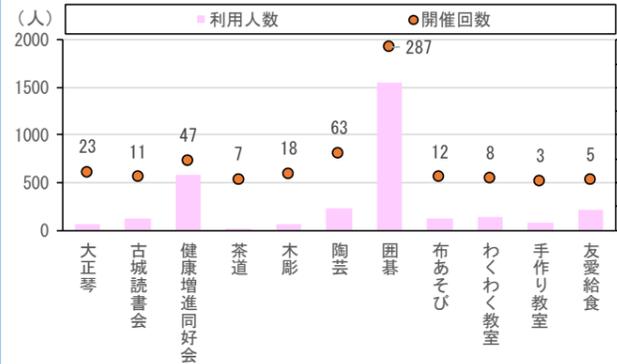
西枇杷島会館
＜ホールの利用状況 (H30)＞



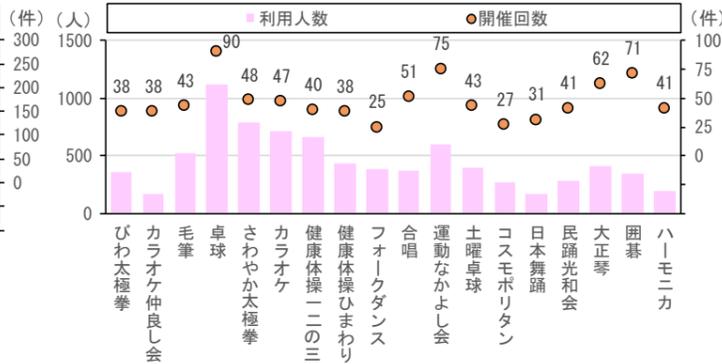
西枇杷島生きがいセンター

- 西枇杷島生きがいセンターの1階部分は現在未利用スペースとなっている。
- 西枇杷島生きがいセンターの貸室の利用率は平均13%で、他施設の利用者の受け入れは可能である。

西枇杷島生きがいセンター
＜自主活動別利用人数 (H30)＞



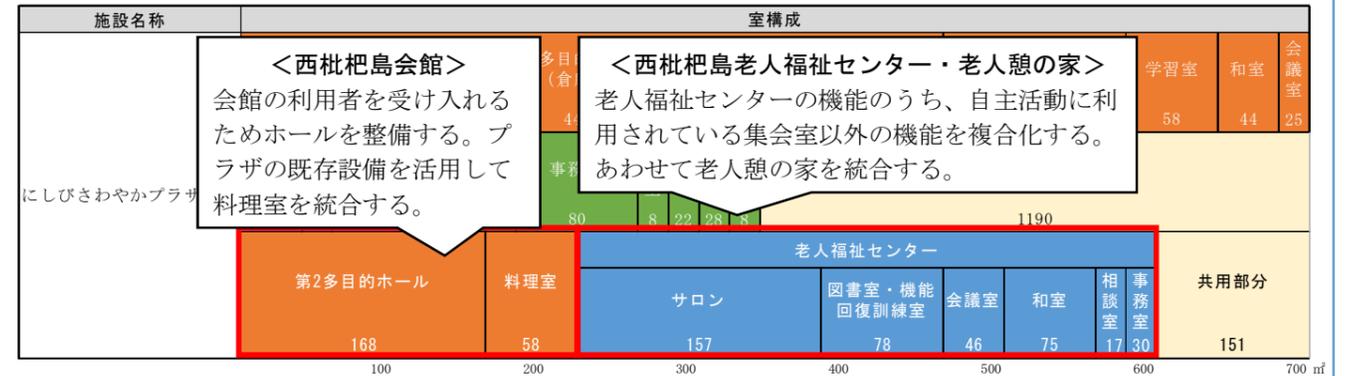
西枇杷島老人福祉センター
＜自主活動別利用人数 (H30)＞



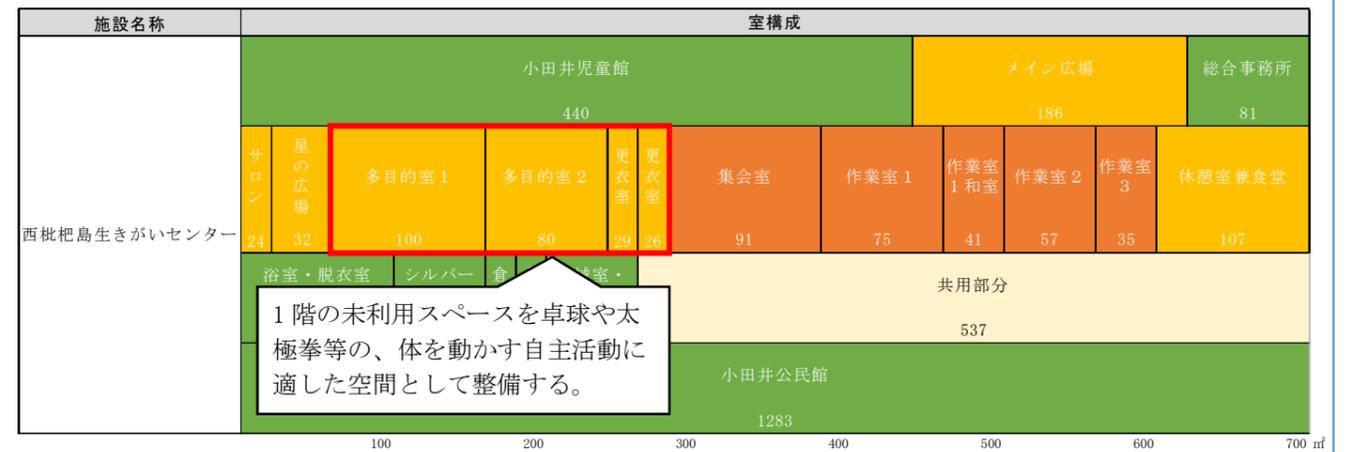
整備内容

- にしびさわやかプラザから西枇杷島保健センターが移転することにより生じた余剰スペースに、西枇杷島会館及び西枇杷島老人福祉センターと、にしびさわやかプラザに隣接する老人憩の家を移転する。
- 西枇杷島生きがいセンターの未利用室を活用し、西枇杷島老人福祉センターで行われている自主活動の受け入れ及び高齢化に伴う利用の増加にも対応できる安全で快適な空間の整備を行う。

<にしびさわやかプラザの施設規模>



<西枇杷島生きがいセンターの施設規模>



<2056(令和38)年度のライフサイクルコスト>

施設名	現状の施設を維持する場合		適正配置方針を行う場合	
	面積 (㎡)	費用	面積 (㎡)	費用
にしびさわやかプラザ	2,984	9.9億円	2,984	9.9億円
西枇杷島生きがいセンター	3,507	11.1億円	3,507	11.1億円
西枇杷島会館	2,010	10.1億円	—	—
西枇杷島老人福祉センター	1,182	4.3億円	—	—
老人憩の家	68	0.2億円	—	—
合計	9,751	35.5億円	6,491	21.0億円
削減量	—	—	△3,260	△14.5億円

※施設の解体費用は含まない。
※統合・複合化に係る費用は大規模改造費及び長寿命化改修費を含むものとする。